

- m. PISAURIDAE キシダグモ科
86. Pisaura lama B. et S. アズマキシダグモ
90. Pisaura clarivitta B. et S.  
タテスジキシダグモ  
本種紛失する。
103. Dolomedes raptor B. et S. ハシリグモ
16. Dolomedes sulfureus B. et S.  
ユオウイロハシリグモ  
hunter で caripeta japonica B. et S. (カヤク  
グリグモ) との区別困難だが、背甲の斑紋は二  
線を成さず、胞板にもU字状斑紋を有しない点  
で区別出来る。
34. Dolomedes angustivirgatus KISHIDA

53. Dolomedes pallitaris D. et S.  
スジボソハシリグモ
68. Dolomedes saganus B. et S.  
スジプトハシリグモ
26. Caripeta japonica B. et S. カリウドグモ
- n. LYCOSIDAE ドクグモ科
24. Lycosa t-insignita B. et S. ウズキドクグモ  
腹部背面前新に八字状斑紋有す。
109. Pirata subpiratica B. et S.  
キバラカイゾクドクグモ  
カイゾクドクグモの特徴は背甲亜側従線斑あり  
その内側に又従線斑を有す°

## 提 案 植物の分類とラベルについて

古 川 博 二

この頃どこの学校へ行っても、校庭の植物にラベル  
がつけてある。公園や遊歩地の植物にも名前がつけて  
あって、まことに結構なことと思うのである。しかし、  
多くは科名と種名とが併記されている。学者はと  
にかくとして、児童、生徒や一般人に対して科名とい  
うものが、いかなる役割をしているであろうか。たゞ  
××科の×××という植物だな、と、納得するだけ  
で、科がどんなものかについては分からないであろう  
し、分かつてもしなないし、また分からないからとい  
って何の痛痒も感じないのである。

科の上には目があり、綱や門も控えている。科の下  
には属があって続いて種となっている。それなのにな  
ぜ科名だけがあんなに優遇されているのであろうか。  
もっと大きなグループに絞ることは出来ないだろう  
か。あるいはもっと大まかな分け方を考えることは出  
来ないものかと思うのである。

植物の名をおぼえることは大切であるけれども、植  
物そのものの内容を知ることがより大切である。植物  
の名とともにその形態、生態を観察し考察する態度こ  
そ肝心である。

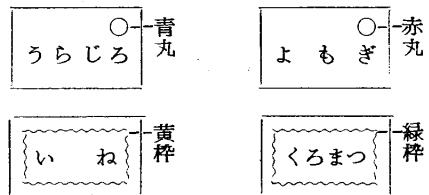
そこで科名などというものは暫らく学者にお返しし  
することにして、私の提案をきいていただきたい。

1. 植物につけるラベルには種名だけを書き科名は  
書かない。たゞし大学の植物園のように学者や研究者  
を対象にもつ所はこの限りではない。

2. 全植物を4グループに分ける。すなわちシダ植  
物、裸子植物、被子植物とし、被子植物をさらに双子  
葉類と単子葉類とする。

3. これらの植物群を色をもつて表わす。色はすな  
わち児童生徒に親しみのある赤、黄、緑、青をもつて  
する。次の通り、シダ植物(青)、裸子植物(緑)、  
双子葉類(赤)、単子葉類(黄)のようにして属する  
グループを明きらかにしようというのである。

4. それには、植物につけるラベルの右肩に、それ  
ぞれの色の○印をつけるか、またはラベルに色枠をつ  
ける。下図の通り



こうして極めて大まかな分類によって、植物を分け  
ることを知り、それを基盤として、植物の研究がすす  
められるようにしよう、というのである。

これは兵庫県の学校は勿論、公園も同一歩調をも  
って実施し、ひいては他府県にも呼び掛け、全国に及ぼ  
そうというのである。

いかがでしょうか、諸賢の御批判と御叱正を賜わり  
たい。

なお、始めに双子葉類を合弁花類と離弁花類に分  
け、全体を5群とすることを考えてみたが、この2群  
は花部以外の形態的の差がないので徒らに群を増すだ  
けであると考え4群にしたのである。